E 12

反応語の分析による和風の住イメージに関する研究

東京学芸大学　小澤紀美子　○佐藤純子

目的　生活水準の上昇に伴ない住要求は多様化してきている。そこで世代によって住意識や住居観がどのように異なるのかをさぐり，住空間の商品化の進むなかで，和風に対する住イメージの全体像を明らかにし，住生活の質のあり方を考察することを目的とする。

方法　住宅展示場来場者に対する質問紙調査。調査期間：1988年9月上旬～11月上旬。調査内容：刺激語として〈和風〉という言葉を与え，その言葉から連想される反応語の採取と5段階グラフ尺度による住居観，住意識に関する質問紙調査（68項目中和風に関する12項目を分析に採用）。有効回収票：回収票626票のうち年齢無記名者等を除く555票が有効回収票。反応語の分析には性別無記入者を除く524票を用いた。反応語の分析方法：採取された言葉をすべてカード化して行った。

結果　世代を19～29才（176人），30～44才（195人），45才以上（184人）の3世代に分けて分析した。①和風という言葉からイメージされた平均語い数は4.4語で男女の差はないが，世代が上がるにつれて語い数は減る（4.78語，4.49語，4.08語）。②和風の反応語をカテゴリーに区分すると住生活についで食生活に関する言葉が多くあげられており，その反応には明らかな世代差がみられる。③住生活に関して各世代に共通に多いのが「畳」であり，特に若い世代に多い。④上位5位までに各世代に共通にイメージされている言葉は，畳，住宅の部位関係，障子，庭関係，床の間である。世代があがる程住宅の部位関係が多く出され，その表現は多様である。⑤若い世代はくつろぎに畳の部屋を求めるが，世代の上がる床の間はきの続き間の和室ではない。